中京大学広報

建学の精神
学術とスポーツの
真剣味の殿堂たれ

発行　中京大学広報部
〒466-8666
名古屋市昭和区八事本町101-2
TEL(052)835-7111(代)
http://www.chukyo-u.ac.jp

北川 薫学長 再選される

第14回学長選挙で選出
新任期4月から4年間

北川 薫学長

北川薫学長の任期満了（二〇一一年三月三十一日）に伴う第十四回学長選挙が、十二月に行われ、北川学長が再選された。二期目の任期は、一一年四月一日から四年間。

学長選挙は、学長選任規程、同施行細則に基づき、専任の教員と職員による第一次選挙が十二月十四日、専任教員による第二次選挙が同十七日に実施された。二次選挙では、候補者三人のうち過半数を得た候補がいなかったため、得票上位二人による再選挙が同二十一日に行われ、多数の票を獲得した北川学長の再選が決まった。

北川学長は、〇七年に学長就任後、自己点検・評価の改善すべき諸課題に対応する体制を構築、全学組織のFD委員会を設置するなど、教育改革に取り組んできた。

北川学長は、一九四五年生まれ、六十五歳。東京大学教育学部卒業、同大学大学院教育学研究科体育学修士課程修了、同博士課程中途退学。同大学教育学部助手を経て、七七年中京大学体育学部講師、八三年教授に就任。〇一年四月から〇六年三月まで体育学部長を務めた。教育学博士（東京大学）。専門はスポーツ生理学、スポーツ科学。

日本学術振興会専門委員、大学基準協会大学評価委員会委員、スポーツ医・科学研究所評議員などの公職を兼務している。

梅村 すみ子先生逝去

女子陸上界、学園に功績

中京大学創設者の故梅村清明氏の妻で、中京大学体育学部元教授の梅村すみ子先生が、十一月二日、老衰のため逝去された。九十三歳だった。

通夜は十一月三日、葬儀・告別式は翌四日、梅村家と学校法人梅村学園の合同葬として、名古屋市昭和区の八事山興正寺本堂で執り行われた。葬儀委員長は北川薫中京大学学長、喪主は長男の梅村清弘総長・理事長が務めた。通夜、告別式ともに七百人が参列した。

梅村すみ子先生は、幼少の頃から陸上競技に秀でた才を発揮され、一九三二年、十五歳で出場したロサンゼルス五輪の女子四百㍍リレーで五位入賞した。戦前に開催された国際女子競技大会（通称・女子五輪）のプラハ大会（三〇年）とロンドン大会（三四年）にも出場し、三二年には日本選手権の女子百㍍で日本記録（12秒2）を樹立、草創期の日本女子陸上界をけん引された。

先生は、出征した清明氏がシベリア抑留から帰国するまで学園校主代理として学園を守り、四七年―六六年に学園評議員。五九年に中京大学商学部を卒業し、体育学部教授（専門・陸上競技）は十一年務めた。松阪女子高校など松阪地区に学園が開設した各教育機関の校長、幼稚園長を歴任。中京大学陸上競技部・女子部の初代部長兼監督、五〇年愛知国体の女子陸上監督、六四年東京五輪陸上女子の選手強化コーチなども務められた。（5面に関連記事）

主な内容

❶北川薫学長再選される／梅村すみ子先生逝去／Net割スタート
❷公式サイトを刷新／社会人基礎力育成グランプリ、中部で優秀校
❸企画「11学部の力」。文学部
❹近藤健児教授、欧州の資金を獲得
❺梅村すみ子先生の合同葬
❻就活の支援体制充実／教員採用試験、44人現役合格
❼就職内定者が後輩にアドバイス
❽学部別の主な就職内定企業
❾学生の研究成果、活発に発表
❿豊田キャンパス授業時間帯変更
⓫大学祭、感動と笑顔と
⓬公開講座（水野耕太郎さん、林南八さん）
⓭景気シンポジウムに190人
⓮国際センターNEWS
⓯日展・書部門、同窓生11人が入選
⓰フィギュアGPで5選手活躍／冨田尚弥選手、アジア大会で金

受験料割引
「Net割」スタート
経費節減、受験生に還元

インターネットから出願するだけで
全入試方式検定料 5,000円割引
Net割出願

本学は、一月七日に願書受け付けの始まった二〇一一年度一般入試、センター試験利用入試から、「インターネット出願の受験料割引」（Net割）を実施する。インターネットを利用して出願した場合に限り、全試験区分とも検定料が五千円割引される。（同時出願割引「Net割出願プラス」も実施する。詳しくは公式サイト「ネット割出願」参照）

インターネット出願は、願書の記入漏れやミスを防ぎ、二十四時間出願できるという受験生にとって確実で便利な出願方法である。また、郵送による出願に比べ、受付処理が簡略化でき、スピーディーになるため、大学側は経費が削減できる。

本学は今入試から、「Net割」を通してインターネット出願の利用者拡大を図り、削減した経費を割り引きという形で受験生に還元していく。

二〇一一年度入試のインターネット出願期間は次のとおり。

2011年度入試「インターネット出願期間」

一般入試（前期日程）
- A方式・D方式 …… 1月7日～1月25日
- M2方式・M3方式 …… 1月7日～1月17日
- センタープラス方式 …… 1月7日～1月25日

センター試験利用入試（前期日程）
- 3教科型 …… 1月7日～1月17日
- 4教科型・5教科型 …… 1月7日～2月2日

一般入試（後期日程）
- 2教科型 …… 2月18日～2月28日

センター試験利用入試（後期日程）
- 2教科型・4教科型 …… 2月18日～3月10日

公式サイト5年ぶり一新
メニュー充実、より便利に

本学公式サイト（ホームページ）が五年ぶりにデザイン、機能ともに一新され、十一月二十五日、公開された（写真）。

新公式サイトのデザインはコバルトブルーを基調にし、簡素でアカデミックに仕上げている。「トップページ」中央の写真やNet Campus周辺は、奥行きと立体感のあるデザインで、斬新な構図をとっている。各ページの右上部に「フォトギャラリー」を設け、ページを移動する度にキャンパスの風景写真が変わり、楽しさを演出している。

ユーザーの利便性を重視しており、メニューページに豊富な項目を配置することで、目的のページまでトップから二回のクリックで到達できるように配慮している。関連性のあるページに移行しやすいように、各ページの下部には「このページを見た人はこんなページも見ています」と案内し、プログラムで集計された上位数件が表示されるようになっている。また、目的のページを項目名で探すことができるように、サイトマップに「五十音順」が追加された。

ニュース関連は、トップページの「最新ニュース」のほか、「イベント情報」、学生たちの活動を伝える「学習・研究活動」「文化会・課外活動」「体育会・スポーツ」の五分野に分かれ、年間五百本以上のニュースが発信されている。

二〇一一年四月開設「スポーツ科学部」の情報はトップページ右側のバナーから。

情報満載　ご覧を

新公式サイトは、大学案内、教育内容、入試情報、学生支援、研究・産学連携、生涯学習・社会貢献などの情報が満載です。ぜひご覧ください。

社会人基礎力育成グランプリ
宮川ゼミ、中部で優秀校
3月の決勝大会に初出場

経済産業省が主催する「社会人基礎力育成グランプリ2011」の中部地区予選が十二月一日、名古屋市内で行われ、本学総合政策学部宮川プロジェクト研究（ゼミ、担当・宮川正裕教授）が、出場十三校中のトップとなる「優秀校」に選ばれた。宮川プロジェクト研究チームは、中部地区代表として、三月九日に東京で開催される決勝大会に出場する。

経産省は、前に踏み出す力、考え抜く力、チームワークの三つが社会人に求められる能力「社会人基礎力」と位置づけている。同グランプリは、学生がゼミなどを通じて社会人基礎力を高め、どれだけ成長したかを発表して競っており、四回目となる。

宮川ゼミの三年生十八人は、中京大学キャンパス内にある大手百貨店系列のレストランの経営改善に協力する、という課題に取り組んだ。実態調査、課題の抽出、新商品や価格戦略の提案などで、売り上げ増に貢献するとともに、学生自身が主体性や考える力を向上させた。

今年度のグランプリ参加大学は、全国で約百校に上り、本学チームなど地区予選を勝ち抜いた八チームが三月の決勝大会で発表する。本学は、昨年度も東日本大会で準優秀賞を獲得しているが、決勝大会への出場は初めてとなる。

学部長インタビュー

「温故知新」の精神忘れず
日本の素晴らしさ伝える気概を

福井　佳夫　文学部長

「若者の活字離れが叫ばれているが、情報源の中心が本であった時代と今は違う。学生たちはインターネット上でも多くの文章を読んでいる。肝心なのは、目的意識をもって学ぶ姿勢だ」

「海外に行くと、日本の文化や歴史、言葉について尋ねられることがある。常日頃、『源氏物語』や『IQ84』など日本の代表的な文学作品や歴史上の人物・遺跡、文化・風習などをしっかり勉強し、日本の素晴らしさを他国の人々に伝える気概をもってほしい」

「私たちの生活や文化は、先人たちの努力の積み重ねの上に成り立っている。学生の皆さんは『温故知新』の精神と感謝の気持ちを忘れずに、歩んでほしい」

研究成果を披露する松崎さん

研究会で興味・関心を探究

松崎　晃さん（言語表現学科3年）

私が文学部研究会に所属して三年が経つ。一年生の頃、友人を作る目的で入会したのだが、文学部研究会はそれ以上のものを得ることができる場所だった。

研究会は学生が自主的に組織し、日本文学や表現の分野で興味・関心のある内容を探究している。私が所属する広告研究会は、将来、コピーライターや編集者を目指す学生が集まり、技術の訓練も兼ねた活動を行っている。

一〇年度はキャッチコピーの制作の他に、円頓寺商店街（名古屋市西区）の活性化をコンセプトにPR広告を制作した。現地調査を行い、有効な媒体やターゲット層などを定めて制作し、研究の成果とした。研究会ではかけがえのない仲間を得られただけでなく、専門的な活動を一年生から始められ、早くから興味関心を追求できた。

ある先生が「講義だけが大学ではない」とおっしゃった。大学生として興味関心を満足させるためにどんな方法があるのか。文学部生には、この文学部研究会という選択肢がある。

11学部の力

国際化の時代だからこそ 高まる存在価値

語ら楽

日本語が楽しくなる学問です。

文学部

本学文学部は、文学の研究を通して物事の本質を見抜く眼力を養う「日本文学科」と、自分の意思や感動を正しく表現する力を養う「言語表現学科」の二学科体制で、教育研究に取り組んでいる。

四十五年の歴史をもつ文学部は、近年、「国際化、グローバル化が叫ばれる現代社会においてこそ、正しく、美しい日本語を使いこなせる資質が必要である。また、それぞれの時代で日本人の心を動かし続けてきた日本文学の存在価値も増している」という理念のもと、カリキュラムを編成し、学生への指導体制を強化している。

一九六六年に商学部、体育学部に次ぐ三番目の学部として開設された文学部は、国文、英文、心理の三学科体制でスタートした。二〇〇〇年、〇二年に相次いで心理学科、英文学科が改組転換し、それぞれ心理学部、国際英語学部に昇格。二〇〇三年に国文学科を日本文学科に改称するとともに、言語表現学科を増設し、現体制になった。

卒業者数は一万五千人（旧三学科を含む）を超え、OB・OGは中学・高校の教員をはじめとする教育関係や公務員、一般企業で活躍している。

各時代の専門教員を配置

日本文学科

日本文学科は、「世界文学の中の日本文学」を強く意識し、その位置づけや、進むべき方向について考え、研究することを教育の柱に据えている。

現代の日本文学は長い歴史の積み重ねの上に成り立っている。各時代の文学を総合的に、そして専門的に学ぶことができるように、上代、中古、中世、近世、近代の文学を専門としている専任教員を配置していることが、本学科の大きな特徴でもある。日本語学・国語教育の領域にも人材を配し、教育効果の向上を図っている。

少人数できめ細かな教育を徹底し、段階的に、確実に専門性を高めていくカリキュラムを組んでいる。一年次には、必修科目の「日本文学入門」「日本語学入門」「比較文学」などで幅広い時代の文学や日本語学を学ぶ。二年次には、各時代の「文学を読む」や「日本語史・日本語学史」などで関心を高めていく。三、四年次には、卒業研究ゼミナールで専門的に研究し、卒業論文の制作へと導く。

言語表現学科の専門科目も受講可能で、言語で表現する力を養い、実務能力を高めることもできる。

文学的教養と実務的言語

言語表現学科

言語表現学科は、母語である日本語を正しく、美しく使いこなし、自身の考えや思いを的確に表現できる能力の育成と、現代社会に価値あるメッセージを発信できる人材の養成を目指している。一言で言えば、「文」（文学的教養）と「実」（実務的言語能力）とを兼ね備えた「文実両道」の人材である。

言語で表現する能力を鍛錬するために多様な講義科目を配している。①「日本語論」②読む・書く・話すなど「実用日本語」③社会的視野をもった「文化論」④日本語表現の精華としての「日本語日本文学」⑤教職（国語、書道）や司書など資格関連――など。授業形態は講義形式よりも、ローチから、表現文献調査、作品制作、発表や討論など、課題解決型の授業が多くなっている。

教授陣はアカデミックな方面で活躍する教員のほか、言語表現の現場で活躍する元新聞社論説委員、漫画家、狂言師、書家など多彩な面々である。作家による「創作」、狂言師による「身体表現」、漫画家による「大衆文化」など様々なアプローチから、表現の可能性を学ぶことができる。

文学部のデータ

開設
1966年4月
開設時は国文学科、英文学科、心理学科の3学科体制。2003年4月に国文学科を日本文学科に改称、言語表現学科を増設し、現体制となる。

学生数〈2010年5月1日現在〉
日本文学科
1年100人、2年79人、3年97人、4年88人、合計364人
言語表現学科
1年91人、2年91人、3年87人、4年100人、合計369人
男女比 男：女＝29%（214人）：71%（519人）

卒業者数
文学部合計 15,051人
内訳：日本文学科313人、言語表現学科322人、国文学科（日本文学科の前身）5,320人、英文学科（国際英語学部の前身）4,884人、心理学科（心理学部の前身）4,212人

教員数
専任14人（内訳：教授9人、准教授5人）

教育実習先の中学校で教壇に立つ垣上さん

学んだことを糧　春から教壇

垣上　薫さん（日本文学科4年）

今年の四月から私は中学校の教壇に立つ。不安に駆られる時もあるが、自分の中で支えにしていることがある。それは、自分は教育者であり、日本文学者であるということだ。

日本文学について、一、二年生の時に上代から現代まで幅広く学び、三年生以降は自分が興味を持てる分野に焦点を絞り、より専門的に学んできた。日本語や外国文学なども学んだ。文学部には、自分が興味を持てるきっかけが多く用意されていた。そんな環境にあったから、幅広い知識と、専門分野の深い知識を持つことができた。

文学は自然科学のように明確な答えを万人にわかりやすく示すことができない。代わりに、研究を進めていく中で発見したことを積み重ねることが可能であると私は思う。そんな魅力を存分に伝えられるのは、文学を専門に学んだ教師だと思う。だから、私は中京大学文学部で学んだことを糧に、自信を持ってこれからの人生を歩んでいきたい。

近藤 健児経済学部教授
欧州の競争的資金獲得

近藤教授

「国際労働移動と環境問題」を共同研究

経済学部の近藤健児教授は、二〇一〇―一一年のエラスムス・マンダス研究者向け奨学金「国際貿易とヨーロッパの統合の経済学」を獲得した。

エラスムス・マンダスは、ヨーロッパの七大学が運営にかかわる、大学院生や研究者への研究助成プロジェクトを遂行する組織。ベルギーのアントワープ大学に本部を置いている。近藤教授が獲得した奨学金は、非ヨーロッパ諸国から年間二人だけが選抜される競争的資金で、一万四千四百ユーロを支給され、七大学の一つで三カ月間研究できる。

近藤教授は、国際労働移動と環境問題に関する共同研究を、イタリア・バーリ大学のニコラ・コニーリョ教授とともに、一〇年九月に実施しており、引き続き一一年二―三月にも同大学で研究する。

森 まどか法学部准教授
大隅健一郎賞を受賞

森 准教授

著書「社債権者保護の法理」

森まどか法学部准教授の著書が、第十五回（二〇一〇年度）大隅健一郎賞に選出された。

同賞は、故・大隅健一郎氏（京都大学名誉教授、元最高裁判所判事）の出捐により設立された公益信託「大隅法学研究奨励基金」が、法学、特に企業法の研究の振興を図るために企業法の分野で優れた業績をあげた者に対し授与するものである。受賞者には褒賞金百万円が贈られる。

受賞対象となった著書は、「社債権者保護の法理」（中央経済社、二〇〇九年刊。本体四千六百円）。社債権者と株主の利害を調整することにより企業価値増大の可能性があるとの視点から、社債をめぐる諸制度を考察したもので、立法論まで提言する意欲作である。

授賞式は一月二十二日に京都市内のホテルで行われる。

社会人学生の草野 洸さん
非破壊検査協会新進賞

草野さん

情報理工学部機械情報工学科三年の草野洸さんは十月二十七、二十八日に那覇市で開かれた㈳日本非破壊検査協会の秋季大会で発表した論文「単眼視ステレオ法による高精度な電子部品3次元計測システムの開発」で新進賞を獲得した。

賞は三十歳以下の若手会員の研究発表を対象に選ばれる。草野さんは大宏電機㈱からの社会人学生で、輿水大和教授の研究室で同社との共同研究にも携わっている。

社会科学研究所と国立中央図書館台湾分館
学術交流協定を締結

協定書を取り交わし握手する檜山所長（左）とファン館長

社会科学研究所と国立中央図書館台湾分館は、十一月九日、台湾の日本統治時代の歴史や社会・文化の研究に関する学術交流協定を締結した。

名古屋キャンパスで行われた調印式には、安村仁志副学長、社会科学研究所の檜山幸夫所長、大友昌子運営委員長、台湾側は国立中央図書館台湾分館のファン・ウェンリン館長、国立台湾師範大学の蔡錦堂教授らが出席した。

協定書を取り交わした檜山所長は「日台間のテーマのみでなく、東アジアスケールでの共同研究をしていきたい」と抱負を語り、ファン館長は「今後は台湾学の推進と人的な交流も進めていく」と述べた。

社会科学研究所の三十年余にわたる台湾研究は、日本だけでなく台湾でも高く評価されている。今回の協定締結により、一層の研究の進展が期待される。

村上 隆現代社会学部教授
行動計量学会 林 知己夫賞に

村上教授

村上隆現代社会学部教授が九月二十四日、二〇一〇年度日本行動計量学会林知己夫賞（功績賞）を受賞した。

村上教授は、「記述的多変量解析の手法の開発とその個人差測定への応用、行動計量学と関連する社会的活動」が認められ、同賞に選ばれた。行動計量学は、人間の行動や社会現象に関するメカニズムを、統計的解析などを用いて解明する学問。村上教授は、計量心理学を専門としている。

Works Published 著書紹介

自ら学び、心豊かで、たくましく生きる、実践力のある生徒の育成

協同教育実践資料12
杉江 修治監修

本書は、二〇〇九年度から一〇年度にかけて、小松市立国府中学校が取り組んできた授業改善の事例を内容としている。ここではまた、授業改善と同時に生徒の生活面指導でも協同の原理を貫き、あわせて外部評価を地域との連携の装置として活用し、成果を挙げた。

監修者は本学国際教養学部教授。二年間にわたり国府中学校の実践づくりへの助言者を務めた。

一粒書房刊。本体二、六二五円。

訃報

心理学研究科長 鈴木 睦夫さん

心理学研究科長・心理学部教授の鈴木睦夫（すずき・むつお）先生が11月10日、病気のため死去された。63歳。

京都大学助手を経て、79年本学文学部講師となり、85年助教授、93年教授、00年から心理学部教授、08年から心理学研究科長を務めた。専攻は臨床心理学。

財務部長 樅山 孝雄さん

財務部長の樅山孝雄（もみやま・たかお）さんが11月6日、病気のため死去された。51歳。

83年本学事務職員に採用され、学生部、会計課係長、財務課係長を経て、97年財務課長、08年から財務部長を務めた。

敬愛の生涯　安らかに

梅村すみ子先生 合同葬

最後の別れ惜しむ教え子

十一月二日に逝去された梅村すみ子先生を追悼する通夜、葬儀・告別式は、梅村学園と梅村家の合同葬として、中京大学に隣接する八事山興正寺本堂で、しめやかに執り行われた。参列者は各界の代表をはじめ、教え子、学園関係者など二日間で計千四百人に上り、最後の別れを惜しんだ。

十一月四日の告別式では、葬儀委員長の北川薫学長が「すみ子先生は、信念を貫き、ひたむきに走りぬいてこられた」と、式辞を読み上げた。すみ子先生の教え子で、一九七二年ミュンヘン五輪の走り幅跳びに出場した田口（旧姓・山下）博子さん（七四年体育学部卒）は「すみ子先生は誰よりも陸上競技を愛し続けた競技者であり、指導者でした」と、切々と弔辞を読んだ。

焼香の列は一時間余り途切れなく続いた。式の最後に、喪主の梅村清弘総長・理事長が「母の生涯は波乱もありましたが、皆さん方に支えていただき、幸せだったと思います」と、参列者に挨拶した。

梅村すみ子先生の合同葬で弔辞を読む田口さん

「建学の精神」走り抜く

九十三年の生涯を終えて、永遠の眠りにつかれた「すみ子先生」、われわれ教職員が敬愛を込めて、そう呼ばせていただいてきた方の霊前に今立って、信念を貫き、ひたむきに走り抜いてこられた先生の生涯に、深く、思いを致しています。

女子一〇〇㍍の元日本記録保持者で、草創期の日本女子陸上競技界をけん引し、理論と実践に裏打ちされた指導で、女性がスポーツ界に進出する先駆けを作った、「競技者」としての「すみ子先生」。

中京大学の創設者となる梅村清明先生に十九歳で嫁ぎ、二男二女をもうけ、清明先生が戦争に応召し、シベリヤ抑留から帰るまでの七年間、学園の留守を守り、四人の子供を戦火から守り抜いた「妻」「母」としての「すみ子先生」。

昭和三十三年から、大学講師、助教授、教授として教壇に立ち、グラウンドに立ち続けた「教育者」「指導者」としての「すみ子先生」。どの「すみ子先生」にも共通していたのが、暖かな、思いやりの視線でした。

先生はこう仰っていました。「最高の努力をすることで目標が達成できる。努力しても目標が達成できないことだってある。しかし、千回繰り返せば努力の事実が残る。その事実は長い人生で、きっと生きてくる」

私たちはそこに「建学の精神」にうたわれた「スポーツ」の深遠な意義を悟ります。私たちに残した先生のメッセージと受け止めて、さらに努力していきます。どうか、学園と大学のこれからを見守りください。

式辞（大要）　中京大学学長　北川　薫

情熱　勇気の指導者

弔辞（大要）

田口　博子さん（74年体育卒）

すみ子先生は、生涯一貫して陸上競技に情熱を注がれ、陸上競技とともに生き、誰よりも陸上競技を愛し続けられた競技者であり、指導者でした。選手のために成果を上げることが何よりの喜びであったように思います。

先生には学生たちに少しでも目標をかなえさせてあげたい、という愛情がありました。寮生活をしている私たちの気持ちを察し、親代わりになって日々の生活から学校のことまで配慮してくださったのです。

ミュンヘン五輪一年前の全日本インカレでのことです。私は、足に違和感があるものの、走り幅跳びの予選に出場すると申し出ました。先生は「無理をしたら、オリンピックに出られなくなる。ここで棄権することも大きな勇気です」と言われました。大きな目標に向かうことの大切さと、一つのことを成し遂げる情熱に深い感銘を覚えました。

先生は自ら運転する車に私を乗せて公園に出向き、走り込みの基礎練習からやり直してくださいました。限界への挑戦という思いもよらない貴重な体験をできました。ミュンヘン五輪に出場が決まった時、すみ子先生によって、私の夢が実現したのだと、感謝の気持ちで一杯になりました。

先生は、常日頃から「女子選手はやがて妻となり、母となって家庭の中心になり、立派に生きていかなければなりません。その時、陸上競技を通じて得た貴重な体験は、必ず生きてきます」とおっしゃいました。

私は先生を人生の母として、師として仰ぎ見てまいりました。先生から賜った温かく心のこもったご指導は数え切れません。すみ子先生、本当にありがとうございました。

名古屋で知事トーク　学生180人参加

愛知県の神田真秋知事が学生たちと自由に語り合う「知事のお出かけトーク」が十一月八日、名古屋キャンパス五号館で開かれた。愛知県が二〇〇七年度から始めた企画で、大学での開催は三回目。本学の学生約百六十人をはじめ、県内外十大学から応募した学生も含め約百八十人が参加した。

神田知事は講演で、弁護士から政治家に転身した経緯をはじめ、一宮市長や知事としての経験をわかりやすく紹介。十月に名古屋市を中心に開催された「生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）」と「あいちトリエンナーレ2010」を振り返り、「地域の魅力を高めたい。今後、環境、芸術、文化が加われば、世界に誇れる地域になれると思う」と語りかけた。

学生との質疑では、「公共事業はどう進めるか」の質問には「公共事業が〝悪〟とみる風潮は行き過ぎだと思う。無駄を取り除き、必要な事業は継続していく」と説明した。

さらに、「私たち若者への期待は」と聞かれると、「挨拶ができる人、人の話をきちんと聞ける人、我慢強い人になってほしい。青春とは待つこと。焦らずに、チャンスがくる日を目指してほしい」と激励した。

参加した学生たちは「知事の話を直接聞くことができ、非常に良い経験になった」「自分の考え方や視野を広げるきっかけにしていきたい」などと感想を述べていた。

「青春とは待つことだ」

神田氏が学生を激励

語りかける神田知事

就活　後輩へ支援充実

本学の就職支援体制は、ここ数年で大きく様変わりした。就職支援部署キャリアセンターの取り組みの強化に加え、内定した学生や同窓生が、就職活動をしている後輩たちのために支援し、協力する体制が確立され、効果がでている。

難関の人気企業に内定した四年生が、相談会やセミナーなどを行う「学生アドバイザー制度」は、その熱心な対応が好評だ。同窓生が業界の説明や企業選びのアドバイスをする「OB・OG訪問会」は、OB・OGを紹介しない企業が増えている中、貴重な機会となっている。

先輩のサポートを受けて内定を勝ち取った学生が、次は後輩のサポートに回る。中京大学というつながりの中で、そんなサイクルが広がっている。

就活体験から学んだ情報を伝える学生アドバイザー

学生アドバイザー
面接対策などを伝授

内定した四年生が後輩の就職活動を支援する学生アドバイザー制度がスタートして四年目を迎え、内容がますます充実している。

本年度も名古屋・豊田両キャンパス合わせて二十人の学生アドバイザーが、十月から三月中旬まで、ミニセミナーや座談会などのイベント、個別相談を通して、自己分析の手法や面接対策などを伝える。各種企画の案内は、就職活動支援サイト「キャリアナビ」に掲載し、お役立ち情報「キャリア☆ブログ」は毎日発信している。

アドバイザーの学生は「自分が就職活動している時、先輩のアドバイスがとても参考になった。後輩の皆さんも学生アドバイザー制度を積極的に利用してください」と呼びかけている。

後輩たちに熱心に説明するOB・OGと真剣に聞く3年生

会社選び ポイント助言
OB・OG訪問会
働く厳しさ、魅力伝える

企業の第一線で活躍する同窓生が三年生に、業界の情報や業務内容等を説明し、会社選びのポイントをアドバイスする「OB・OG訪問会」が十二月十一日、名古屋キャンパスで開かれた。同会は毎年、就職活動が本格化するこの時期に実施されており、今年は四百五十人余の三年生が参加した。

学生からの評価は高く、働くことの厳しさと魅力を学ぶこともでき、モチベーションのアップにもつながるという。

同窓生からは「熱心に業界研究をしている学生が多い」「女性の積極性が目立った」のほか、「積極的とそうでない学生の二極化」「マナー向上にも意識を」など、後輩への期待が大きい故に厳しい意見も寄せられた。今回、ご協力いただいた同窓生は七十二人（五十四社）、入社五年以内の方が中心だった。

教員採用試験
現役合格は44人
通信課程で小学校免許 体育学部19人が初合格

公立学校の二〇一〇年度教員採用試験の現役合格者が計四十四人（複数合格を除く実人数は三十九人）となった。〇九度の二十五人（実人数二十四人）を大幅に上回り、過去十年で最多だった。

教務課が十一月末現在でまとめた現役合格者の内訳は、小学校二十一人、中学校十九人、高校四人。小学校の合格者のうち十九人は、体育学部が〇七年度入学生から導入した玉川大学の通信教育課程を履修・修得し、小学校の教員免許（教諭二種）を取得見込みとなっている。このプログラムによる合格者は初めてとなる。

合格者の教科別の内訳は、中学校が保健体育九人、社会四人、国語三人、数学二人、英語一人。高校は保健体育四人。地域別では、愛知県の二十人が最も多く、次いで名古屋市の八人、大阪府四人、三重県三人、東京都、神奈川県、川崎市、京都府が各一人だった。複数合格は、小学校では三教委のトリプル合格一人、ダブル合格一人。中学校では、ダブル合格二人だった。

公認会計士試験 3人が二次合格

二〇一〇年度公認会計士試験の二次試験に、経営学部四年の高橋一平さんと、経済学部一〇年卒の西出有志さん、経済学部〇九年卒の塩澤祐亮さんの三人が合格した。同試験の合格者は〇八年度以降、三年連続となった。

塩澤さんらは、資格センターが管理する難関試験受験生のための学内施設「弘道塾」で在学中から学んでいた。

業界セミナー
人事担当者が説明

各業界のリーディングカンパニーの人事担当者八十人が、業界の動向や採用基準を説明するキャリアセンター主催「業界セミナー」が、十月十二日から二カ月間にわたって、名古屋・豊田両キャンパスで行われた。

キャリアセンターは、業界セミナーにできる限り参加するように呼びかけ、早い段階で志望企業を絞り込むのではなく、自分にあった仕事をじっくり探すように指導している。学生たちは平均九・三社の説明を受け、「様々な業界の説明を聞き、視野が広がった」「業務内容が多岐にわたり驚いた」などの感想を語った。

学生たちは平均9.3社の業界セミナーに参加

就職内定 私の道

ホーユー
大切なもの考え続け

岩井　大輔さん　経営学部経営学科

私がこの就職活動の中で常に意識していたことは「何を大切にするか」である。これからの長い人生において自分の大切にしたい事に優先順位をつけ、どんな人間になりたいかを常に自問自答し模索を続けた。

夢・家庭・金・遣り甲斐等、複数ある選択肢の中で自分にとって本当に大切なモノとは何なのか？その答えを探すために業種を問わず多くの企業を訪問し、自分にとっての最良のフィールドを考え続けた。

会社訪問や採用試験を重ねた経験が自分の視野を広くし、自分にとって「大切なモノ」をブラッシュアップさせる事ができた。社員の方々から得た生の情報と自分が感じた本音を基に、自分だけの志望動機作りを心がけ、面接に望んだ。

未来に対する欲求は人それぞれだと思う。後輩の皆さんには、自分にとっての「大切なモノ」を貪欲に追い、全力で就職活動に励んでほしい。時には悩む事もあるとは思うが、おのおの歩んだ環境、経験を通して自然と身に付いたもの、それがあなたの“Color（色）”である。面接では自信を持って自分の“Color”を発揮し、あなた色の揺るぎない「大切なモノ」を掴み取ってほしい。

キヤノン
情報集め経験積む

原口　朋比古さん　情報科学研究科情報科学専攻

就職活動において重要なことは、経験だと思う。自身の過去の経験はもちろんだが、それ以上に就職活動中の経験をその後の選考にどう活かすかが重要である。

エントリーシート、筆記試験、面接の選考結果を分析し、その経験を次に活かすことが内定を得る近道だと思う。しかし、そこに大きな壁がある。それは答え合わせができないこと。何がよくてパスしたのか、何が悪くて落とされたのかがわからないのである。

そこで必要となるのが情報収集である。本や雑誌、インターネットなど様々な媒体や、先輩・友人から情報収集を重ね、選考の結果を自己採点する。多様な情報を取捨選択し、正しい方向を見定めるかがキーとなる。そのためには、柔軟な考え方をもって、数多くの経験を積むしかない。これまでの人生経験、自分自身の価値観は変えられなくても、それを相手に伝える姿勢や方法、表現などは変えられる。場数を踏むことで、よりよい伝え方を身に付けていってほしい。

就職活動はこれまでの自分を見つめ直すチャンスであるとともに、ステップアップのきっかけになると思う。ぜひ夢を広げて、一歩先の自分を目指してほしい。

電　通
自信持ち個性伝える

鈴木　悠基さん　体育学部体育科学科

就職活動は、自己PRを何回書いたか、説明会に何回行ったかが重要ではない。重要なのは自分の「個性」をどう考え、伝えることができるか。そのために必要な「考え方」を後輩の皆さんには参考にしてほしい。

「自信」。過信ではない、本当の意味での「自分を信じる」こと。就職活動中、自分はその企業に必要がないのではと感じて自信をなくすことも多い。それは自信をなくす程のことだろうか。「発展途上の自分を信じる」。今の自分には何もないかもしれない。でも今までの生き方、考え方は自分だけにしかないもの。「自信」を持ってほしい。

「繋がり」。自分自身の全て。自分という人間を作り、成長させる。繋がることで、今まで自分になかった考え方や経験を知ることができる。そうやって成長しながら、その繋がりを守っていく。今に繋がるためには、繋がりを作った時の自分より成長した自分が必要だから。

就職活動は大切なことばかり。自己分析を通して自分を知り、エントリーシートや面接を通して考え方や伝え方を学び、内定を通して自分の居場所を見つける。この素晴らしい就職活動に「自分らしく」取り組んでほしい。

日本ハム
行動で将来を実現

石黒　裕也さん　総合政策学部総合政策学科

「理想の自分」を考えること。それが私の就職活動の第一歩であり、貫いたことだった。理想の自分を明確にし、アピールするためにはどうすれば良いかをひたすら考え続けた。私にとって就職活動は、夢と理想の自分を実現する活動でもあった。

私の理想とは、バイタリティ溢れる人である。過去の経験から導いた表現したい自分の強みとも重なり、目標をそこに定め、活動を進めた。多くの企業説明会に参加し、先頭に座り、前のめりになり話を聞いた。また全ての説明会で必ず初めに質問する事も心掛けた。業界研究では食品メーカーを志望していたこともあって、数多くのスーパーや飲食店に足を運び、アンケート等を行った。このような活動の結果、面接では思いを語る事ができたし、アピールしたい自分を存分に表現することもできた。

後輩の皆さんも理想の自分を考え、アピールしてほしい。また全ての活動に対し、手を抜かず必死に臨んでもらいたい。なぜなら、皆さんのために多くの方が力を尽くしてくれるからだ。力を尽くしてくれた多くの方に感謝し、必死に活動をする事で、納得のいく就職活動になるのではないだろうか。

三井住友海上火災保険
準備積み重ね自信

秋山　司美さん　国際英語学部国際英語学科

就職、進学、留学。大学三年の春、私は「自分がどうありたいか」、この三つの選択肢を徹底的に考えた。そして選んだ「就職」。決めたからには後悔のない、「納得就職」をすると決意した。自分の決断に自信を持ちたかったからだ。

では「正解」のない就職活動において「納得」とは何か。出した答えは「一つ一つに全力で取り組む」こと。就職活動は多くの準備が必要である。時間に追われることは必至だ。だからこそ、「早めのスタート」を心掛けた。SPI対策は夏休みから始め、何度も解き直した。十月からはキャリアセンターへ自己PRの添削をお願いし、何度も修正した。業界セミナーは幅広い業界へほぼ毎日参加した。こうした一つ一つの準備が、選考の過程でしっかり生きてくるのを実感した。面接に臨むのは自分自身。最後に自分を支えてくれるのは自分自身だけである。

後輩の皆さん、就職活動は長期戦、上手くいかない時、辛い時もあるだろう。しかし、そんな時こそ立ち止まらず行動し続けてほしい。「正解」のない就職活動だからこそ、「ここまでやった」という自信が、最後は自分を支える力になると信じている。

学部別 主な就職内定企業

（2011年3月卒業予定者）

文学部

ヨー、三菱東京ＵＦＪ銀行、ルフレッサ、小野薬品工業、十六銀行、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、損害保険ジャパン、日本郵政グループ、瀬戸信用金庫、大垣共立銀行、あいおいニッセイ同和損害保険、トヨタファイナンス、日本通運、郵船ロジスティクス、近鉄エクスプレス、古屋鉄道、春日井製菓、バッファロー、旭化成ホームズ、岡谷鋼機、ウェザーニューズ、ジェイアール東海ツアーズ、中部ケーブルネットワーク

国際英語学部

日本特殊陶業、デンソー、オークマ、日本メナード化粧品、マキタ、三五、フタバ産業、住友電装、森精機製作所、豊田通商、タキヒヨー、三菱東京ＵＦＪ銀行、ルフレッサ、小野薬品工業、興和、リンナイ、旭化成ホームズ、八神製作所、ＪＴＢトラベランド、近畿日本ツーリスト、エイチ・アイ・エス、愛知県信用保証協会

心理学部

東京海上日動火災保険、三井住友海上火災保険、日本興亜損害保険、明治安田生命保険、野村證券、三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券、北陸銀行、三重銀行、グラクソ・スミスクライン、ノバルティスファーマ、アトリ、セブンーイレブン・ジャパン、豊通ケミプラス、福法聖隷福祉事業団、毎日コミュニケーションズ

現代社会学部

三菱東京ＵＦＪ銀行、三井住友銀行、大垣共立銀行、三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券、大和証券グループ本社、みずほ証券、日興コーディアル証券、東芝、大日本印刷、日本特殊陶業、三五、フタバ産業、コカ・コーラセントラルジャパン、旭化成ホームズ、東海旅客鉄道、東日本旅客鉄道、ニ十二銀行、北陸銀行、野村證券、大和証券グループ本社、ＳＭＢＣフレンド証券、日本ハム、アシックス、住友電装、三五、タカラスタンダード、大正製薬、アストラゼネカ、大日本印刷、積水ハウス、大和ハウス工業、旭化成ホームズ、伊勢湾海運、瀧定名古屋、エイチ・アイ・エス、全日本空輸

法学部

りそな銀行、日本郵政グループ、百五銀行、瀬戸信用金庫、岡崎信用金庫、三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券、日興コーディアル証券、ＳＭＢＣフレンド証券、第一生命保険、日本生命保険、住友生命保険、明治安田生命保険、アルフレッサ、大正富山医薬品、タカラスタンダード、積和不動産中部、住友不動産販売、ニトリ、三井不動産販売、青森朝日放送

総合政策学部

三菱東京ＵＦＪ銀行、三井住友銀行、大垣共立銀行、百五銀行、名古屋銀行、八十二銀行、北陸銀行、野村證券、大和証券グループ本社、日興コーディアル証券、東京海上日動火災保険、セディナ、アイシン・エィ・ダブリュ、大同メタル工業、日本特殊陶業、三五、スズキ、ファイザー、山崎製パン、積水ハウス、大和ハウス工業、住友林業、瀧定名古屋、東海旅客鉄道、西日本電信電話、エヌ・ティ・ティ・データ、インテック

経営学部

三菱東京ＵＦＪ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、十六銀行、大垣共立銀行、名古屋銀行、大和証券グループ本社、三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー証券、東京海上日動火災保険、明治安田生命保険、アイシン精機、アイシン・エィ・ダブリュ、日本ハム、ＴＨＫ、タカラスタンダード、ホーユー、リンナイ、イノアックコーポレーション、キッセイ薬品工業、スズケン、積水ハウス、大和ハウス工業、住友林業

情報理工学部

エヌ・ティ・ティ・データ東海、日本システムディベロップメント、日立システムバリュー、富士通中部システムズ、ＴＩＳ、アイシン・コムクルーズ、デンソーテクノ、日本コンピューター・システム、日立公共システムエンジニアリング、北陸日本電気ソフトウェア、ミエデンシステムソリューション、エヌ・ティ・ティネオメイト、東計電算、中電シーティーアイ、フジパングループ本社、アイシン・エィ・ダブリュ、ヤンマー、住友電装、ＪＴＢ中部、西日本旅客鉄道、全日本空輸、日本トランスシティ、北陸銀行

生命システム工学部

富士通中部システムズ、アイシン・コムクルーズ、ＮＳＤ、ダイキエンジニアリング、エヌ・ティ・ティネオメイト、豊通シスコム、三菱電機住環境システムズ、ヤガミ、積水ハウス、住友不動産販売、アイシン・エィ・ダブリュ、パナソニックシステムソリューションズジャパン、塩野義製薬、シチズン平和時計、テルミック、協立電機、サトープレス工業、タマディック、日比野工業、鈴秀工業、高木製作所、東海旅客鉄道

体育学部

トヨタ自動車、トヨタ車体、ブリヂストン、マキタ、井村屋製菓、小野薬品工業、アストラゼネカ、興和、ＮＴＮ、凸版印刷、東京海上日動火災保険、三井住友銀行、名古屋銀行、京都銀行、日本生命保険、あいおいニッセイ同和損害保険、セディナ、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、名古屋鉄道、タキヒヨー、セブンーイレブン・ジャパン、ゼビオ、西日本電信電話、電通

全日本学生ディベート選手権

犬飼　碧さん　法学部2年　3位

法学部二年の犬飼碧さん（写真）が、十二月四、五日に東京で開かれた「第十回全日本学生ディベート選手権大会」（全日本ディベート連盟主催）に出場し、三位となった。

ディベートは、決められた一つの論題について肯定否定に分かれ、制限されたスピーチ時間内にジャッジ（審判）を説得する討論の試合。大会には、東京大学や中央大学など首都圏を中心に学生十八チームが参加して、「日本国政府は代理出産を認めるべきである」を議題に論戦を繰り広げた。

犬飼さんはディベート歴七年で、中京大ディベートサークルにも所属している。今回は中学、高校の先輩の小林茜さん（南山大学三年）とペアを組んで出場した。優勝した東京大学ペアに準決勝で敗れたものの、見事三位入賞を果たした。

犬飼さんは「ディベートの議題を通してより広い視野で社会に向き合うことができるようになった。大会に一緒に参加したパートナーと指導していただいた方々に感謝したい」と話している。

梅村学園美術展

2月8日から　名古屋市博物館

第四十九回梅村学園美術展が二月八―十三日、名古屋市博物館（名古屋市瑞穂区）で開かれる。

中京大学と中京大中京高校それぞれの書道部、写真部、美術部の計六クラブが、書・写真・絵画の三分野、合計百作品以上を出展する。

梅村学園美術展は、六クラブの合同展示会として四十九年前に始まった。大学、高校の各クラブの部員たちは互いに切磋琢磨し、精力的に作品制作に取り組んでいる。企画運営も部員たちが行い、美術展を通して、本学と附属高校との交流を深めている。

総合政策学部

COP10参加、貴重な体験

総合政策学部で国際法の研究をしている小山プロジェクト研究三年生が、十月に名古屋で行われた生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）関連イベントに様々な形で関わり、貴重な体験をした。

「交流フェア・フォーラム」（十月二十三日）では、今年四月から小山佳枝准教授の指導を受け、準備をしてきた「ABS（遺伝資源へのアクセスと利益配分）問題を三つの立場から考察し、生物多様性条約の問題点を探る」のテーマで研究発表した。シンポジウム形式で四十分発表し、質疑応答で受けた一般参加者からの意見・質問は今後の研究の指針となった。

「先住民族準備会合」では、ボランティアとして先住民の案内、受付、通訳を行った。本会議「締約国会議」では、全体会合、作業部会会合等の会場内入場が許可され、意思決定の過程や国家間の合意形成を目の当たりにした。

学生たちは「COP10に参加し、新たな課題が浮き彫りになった。今後も団結し、研究に取り組んでいきたい」と意欲を見せていた。

シンポジウム形式で発表する学生

英米文化学科

プレゼンテーションで自信

国際英語学部英米文化学科が主催、三年次ゼミ生が研究成果を発表するポップカルチャー・ワークショップが、十二月四日、名古屋キャンパスで開かれた。

二十三人の学生が、六つのセッションに分かれ、個人、グループ合わせて十七の研究を全て英語でプレゼンテーションした。

研究の内容はアメリカやカナダの政治、音楽や文化、娯楽や芸術、万国博覧会、環境問題、食とファッションなど様々な分野に及んだ。

発表した学生たちは「絶対成功させたいという思いで取り組んできた」「研究をすることで情報収集の力、大勢の人の前で自分の考えを伝える力がついた」「発表の成功を自信に英語力の向上と卒業論文制作に生かしていきたい」などと感想を述べていた。

23人の学生が17テーマでプレゼン

研究成果、活発に発表

国際英語学科

企業招きスピーチ能力披露

国際英語学部国際英語学科三年生が、十月十五日、十六企業十九人を招いて第七回研究発表会を名古屋キャンパスで開いた。

今年は、社会そして世界へと「近づく」ことを目的として「Closer~Take a chance on you」をスローガンに掲げ、発表や進行の全てを英語で行い、英語コミュニケーション能力と研究成果を披露した。

当日は、三グループが「徳島県や滋賀県に見られる町おこし」「若い女性に感染が広がる子宮頸がんへの取り組み」「就職氷河期における就職活動」をテーマに発表した。発表後の懇談会では、日本経済新聞社などの企業担当者から、働くことの大変さや楽しさ、やりがいなどについて話を聞き、アドバイスを受けた。

参加した学生からは「これから本格的な就職活動を迎える私たちにとって大変意味のあるものだった。企業の皆様や先生方に感謝している」といった声が寄せられた。

発表・進行の全てを英語で行った研究発表会

経済学部

中部地区インターゼミ 他大学の学生と交流

発表する近藤ゼミ生

経済学部の近藤ゼミ、古川（雄）ゼミ、風神ゼミ、増田ゼミの三年生六十八人が十一月二十七日、「中部経済学インターゼミ」（会場・名古屋大学）に参加し、研究成果を発表した。

インターゼミは、経済学を学ぶ愛知県内の学生たちが大学を越えて研究し、交流を図ろうと二〇〇七年に始まった。年々参加ゼミが増え、今年は本学のほか、名古屋、名古屋市立、愛知、南山、名古屋学院、富山の計七大学、百五十人の学生が参加した。

近藤ゼミの中倉亮太さんらは「懸賞」のテーマで、懸賞の消費者と企業それぞれのメリットやデメリット、当選するコツなどを調査、研究した。中倉さんは「共同で研究する中で仲間の大切さや、仲間の優れた点を知ることができた。今後は視野を広く持って、卒論や就職活動にこの経験を生かしていきたい」と話している。

文学部

9研究会が合同 白熱の質疑応答

文学部の学生らが自主的に組織している九つの研究会が一年間の研究成果を披露する「第二十二回文学部研究会合同発表会」が十一月十三日、名古屋キャンパスで行われた。

今年は六つの研究会の七人が「万葉集の歌と物語」「立版古と役者絵についての考察」「地域広告制作」など、テーマ別で発表した。会場には研究会員のほか、文学部教員、大学院生、卒業生、他大学の学生など五十人を超す来場者が集まった。白熱した質疑応答もあり、発表会は五時間にも及んだ。

終了後、教員や卒業生から「楽しく聴くことができた」「昨年以上に発表内容の精度が高かった」などの感想が寄せられた。

運営スタッフは「発表者や私たちスタッフにとって、収穫の多い発表会であった」と語った。

教員や院生、卒業生を前に発表する学生

豊田キャンパス

テーマ「掌」

～届けよう!!熱い想いを掌に込めて～

実行委員長　中根 光規（機械情報3）

今年の大学祭は前夜祭と後夜祭で雨が降り、２日目は台風の影響で中止になってしまった。こうした悪天候の中でも、多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。

「『掌』～届けよう!!熱い想いを掌に込めて～」というテーマにふさわしく、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の来場者に、『掌』を通じて私たちの熱い想いを伝えることができたと思う。

フリーマーケットやブース出店者、ステージ出演者も大いに盛り上げてくれた。大学祭実行委員会独自の企画も成功し、会場内には感動が生まれた。今回大学祭に関わった皆さんの想いを、今後の活動に生かしていきたい。

名古屋キャンパス

テーマ「縁」

実行委員長　柴　茉里香（総合政策4）

第57回中京大学祭は台風に見舞われ、１日目の開催を断念しなければならなくなった。しかし、大学祭に関わった多くの方々の協力により、その他は大きなトラブルもなく、無事に幕を閉じた。この場をお借りして実行委員一同、厚くお礼を申し上げます。

前夜祭、２日目は大きな天気の崩れもなく、多くの参加者にご来場いただき、学内の各所で笑顔を見ることができた。

開催できなかった企画もあり、残念で悔しい想いもあるが、この想いを来年につなげ、更に良い大学祭を築いてほしい。

宮内ゼミ3年生、「Sカレ」提案

安全な食器棚、企業に高評価

宮内准教授（左端）とプロジェクト研究の学生たち（前列三人）

総合政策学部の宮内美穂准教授プロジェクト研究（ゼミ）の三年生が提案した食器棚が、「スチューデント・イノベーション・カレッジ（Sカレ）」のカテゴリー別部門で二位となった。

Sカレは、複数の大学の学生が、商品開発支援のWebサイト「空想生活」に企画を公開し、ユーザーと対話を重ねながら約半年間かけて商品化を目指す大学横断の学習プロジェクト。今年は関東、関西の国公私立大学を中心に、十三大学約三百人が参加した。

宮内プロジェクト研究から参加したのは、岩崎江里子さん、内田綾夏さん、湯浅麻依子さんの三人。十一月二十七日、関西大学で行ったプレゼンテーションで、「割れない、倒れない、重ねない食器棚『大切な人に贈り棚』」を発表し、高齢者や車いす使用者に配慮した、使いやすい設計や特長などを説明した。

その結果、共催の家具メーカーなどから「商品力が最も良かった」と高い評価を得た。

学生たちは「大きな自信になった。今後の学習に生かしたい」と話している。

豊田キャンパス4月から

1時限目は9時30分開始

通学条件を改善

豊田キャンパスに設置された学部・大学院の授業時間帯が、学生の通学条件の改善を目的に、二〇一一年四月から変更される。一時限目の開始時間が現行の九時から三十分遅い九時三十分に、二時限目以降も同様に各三十分繰り下がる。

一時限目の授業を受ける学生たちは、通勤ラッシュの影響を受け、混雑する交通機関や交通渋滞の中、通学していた。また、名古屋駅から六十分を要するため、岐阜県や三重県等の遠距離通学者は、早い時間に家を出る必要があった。

授業時間帯の変更は、学生の通学の負担を軽減するとともに、自宅から通学できる範囲の拡大にもつながる。

※名古屋キャンパスは現行通り。

豊田キャンパスの2011年度授業時間帯

1時限目	9:30～11:00
2時限目	11:10～12:40
3時限目	13:30～15:00
4時限目	15:10～16:40
5時限目	16:50～18:20

2011年度 学年暦

春学期

月	日（曜日）	行　事
3	24㈭～28㈪	履修登録（2･3･4年次）
4	1㈮	入学式
	2㈯･4㈪	履修･学生生活ガイダンス（1年次）
	5㈫	学部ガイダンス（1年次） 履修相談会（1年次）
	6㈬	履修登録（1年次）
	7㈭	履修時間割開示（全学年） 履修登録追加（1･2年次）
	8㈮	授業開始 履修修正（3･4年次）
	11㈪～14㈭	履修修正（全学年）
	30㈯	休講（梅村学園創立記念日振替）
5	2㈪	休講（中京大学創立記念日振替）
	17㈫	梅村学園創立記念日（平常授業）
	18㈬	中京大学創立記念日（平常授業）
7	18㈪	海の日（平常授業）
	21㈭	平常授業終了
	22㈮～29㈮	定期試験
8	1㈪～5㈮	集中講義
	29㈪	成績開示（4年次）
9	1㈭～7㈬	追試験･再試験
	12㈪	成績開示（全学年） 再試験結果発表（4年次）

秋学期

月	日（曜日）	行　事
9	13㈫～15㈭	履修登録（全学年）
	21㈬	履修時間割開示（全学年） 履修登録追加（1･2年次）
	22㈭	授業開始 履修修正（3･4年次）
	23㈮	秋分の日（平常授業）
	23㈮～28㈬	履修修正（全学年）
10	10㈪	体育の日（平常授業）
	28㈮～30㈰	大学祭（休講）
	30㈰	創立者祭
12	22㈭	年内平常授業終了
1	11㈫	平常授業再開
	20㈮	平常授業終了
	23㈪～30㈪	定期試験
2	10㈮～16㈭	集中講義
	14㈫	成績開示（4年次、情報理工学部2年次）
	17㈮～23㈭	追試験･再試験
3	6㈰	卒業･進級判定発表 （4年次、情報理工学部2年次）
	19㈯	卒業式

2011年度学年暦 授業開始4月8日

二〇一一年度の授業や集中講義、定期試験などの日程「学年暦」が決まった。授業や行事の予定はほぼ例年通りで、春学期の授業開始は四月八日。

中京大学祭

感動と笑顔と

10月28日～31日

後夜祭

火の舞でフィナーレ

有終の美を飾った火舞

最終日も豪雨。そんな状況の中、第十七回とよた祭を締めくくる後夜祭には、多くの来場者の方にお越しいただいた。

私達実行委員は、初めは来場者が集まるかどうか心配していたが、企画にも多くの参加者があり、抽選会も大いに盛り上がった。

フィナーレとなる火舞では、多数の観客の感動を呼び、有終の美を飾ることができた。

事前準備やリハーサルではいろいろと大変なことがあったが、実行委員会のメンバーでお互いに支え合うことができた。

最後に来場者の方々と感動を共感できたことは、私たち中京大学祭豊田実行委員会にとって最高のご褒美だった。

（現代社会2・山田　健斗）

大食い選手権

日程変更も協力で克服

毎年恒例の大食い選手権を、今年は二日間に短縮して実施した。

二日目の予選を中止した影響で、急きょ一日目の予選通過チームと昨年の優勝チームが決勝を争うことになった。不安な気持ちで迎えた決勝戦（写真）だったが、問題もなく無事終了することができた。

日程変更等により心配することも多かったが、最後まで楽しくやり遂げることができたのは、観客の方々や参加者の皆さん、そして約五カ月間一緒に頑張ってきた班員全員の協力のおかげである。本当に感謝している。

（現代社会2・久富　真理恵）

宵祭で踊るチアリーディング部

豊田キャンパス

「CRACK UP」出場者によるダンス発表

企業トップが審査員

ビジネスコンテスト

今大学祭イチオシの新企画「ビジネスコンテスト」を四三一教室で実施した。

この企画は、経済・総合政策学部生を中心に一組四人から八人で構成する五組が「企業の成長戦略」をテーマに発表し、その内容を競うというもの。審査員は、サークルKサンクスの土方清会長ら有名企業五社のトップにお願いした。

五組は、調査したデータなどを用いて、牛丼チェーン松屋の成長戦略をそれぞれ発表した。

審査員からは「よく調査している。参考になった」などの評価をいただいた。

初めての企画で、準備も大変だったが、参加者、審査員その他多くの方々の協力を得て、無事開催することができた。出場した学生には、この経験を今後に生かしてほしい。

（経営3・舟橋　智美）

新企画のビジネスコンテスト

名古屋キャンパス

「来て、食べて」積極呼び込み

ブース企画（模擬店）

ブース企画（模擬店）は、最も多くの中京大生が運営に関わり、多くの来場者が参加する企画である。一日目が中止となり、二日目のみの出店となったが、多くの来場者でにぎわった。

来場者は、美味しそうな匂いに誘われて食べ物を買ったり、興味のある展示を見て回ったりと楽しそうにしていた。出店者も、一日目を取り返すかのように、各ブースで積極的な呼び込みを展開し、看板や装飾にも力を入れていた。

ブースを回ることで挑戦できる福引き企画では、出てくる玉の色を見るたびに、挑戦者が一喜一憂する姿が見られた。

（経営3・家田　訓子）

積極的に販売する学生たち

地域住民、親睦会に招待

大学祭への協力を依頼

大学祭実行委員会は十月十四日、地域の皆さんに大学祭の案内をするとともに交流を深めるための親睦会「コミッティー八事」を名古屋キャンパスで行った。

大学祭実行委員や文化会軽音楽部の学生らが、大学祭への理解と協力をお願いした。地域と連携し、安全で快適な地域づくりに協力する地域安全宣言も行った。

経済・経営シリーズ㊶

地球資源問題の現状と課題

～「エネルギー」「鉱物」「水」「食糧」を中心に～

中部経済同友会代表幹事 東邦ガス㈱取締役会長
水野 耕太郎さん

公開講座

持続可能性保つカギ 「創」「省」「再」の三つ

「一つの地球が生み出す資源で養える人口は八十億が限度で、二十年後に世界総人口はその程度になるという。しかし、すでに地球資源は、供給が需要に追いつかない状況になりつつある。

地球資源の需給バランスを図り、その持続可能性を保つには、『創』『省』『再』の三つが鍵になるだろう」

「エネルギー資源に関しては、化石エネルギーが枯渇する懸念から、非在来型の天然ガスや石油は、自然エネルギーや原子力の利用拡大、また日本の優れた省エネ技術の新興国等への普及も課題だと考える。

鉱物資源、特にハイテク製品に不可欠なレアアースについては、中国による生産独占から脱却しようと、今や各国で鉱山開発が目白押しだ。あるいは、都市鉱山（廃棄ハイテク製品）に含まれるレアアースの再利用や代替材料の実用化に向けた開発も期待される。資源問題をめぐる日本の一番のアキレス腱は、自給率の低さだ。資源を安定的に確保するには、輸入先を多様化し、リスクを分散することが肝要だろう」

「さて、水循環のバランスの崩れは大河の流れをも細めている。地球規模での水不足は深刻で、『新たな水を創る』『節水』『下水の再利用』など水確保への取り組みは国家的課題と言える。食糧の安定確保も国家の至上命題である。食糧増産に向けて、自国外での農地争奪も激しくなっている。日本では、食の安全・安心の側面からも自給率向上は喫緊の課題だ。増産への取り組みはもちろん、廃棄でなく有効利用を推進したい。

資源問題というのは、知恵と技術とお金を投入して解決できる面もある。一方で、限られた資源をいかに大切に使っていくかを考えること、それも実は大きな課題だと思っている」

（10月20日・名古屋キャンパス431教室）

公開講座の開催はホームページで順次ご案内しています。

ソフトサイエンスシリーズ㉛

どうなる日本のモノづくり トヨタ生産方式の本質と進化

今、何が求められているか　～深化～

トヨタ自動車㈱取締役
林　南八さん

自働化へのこだわりとジャスト・イン・タイム

経済危機回復の兆しがなく、円高基調は止まない。自動車産業はこの経済状況をどう乗り切るのか。林氏は、百年に一度の経済状況と受け止める一方、『乾き切ったタオルはない、現状打破のためにまだ絞れる』（大野＝耐一元副社長＝語録）との考えを元に、今こそモノづくりのトヨタ生産方式ＴＰＳ（Toyota Production System）へと原点回帰すべき、との大きな流れで講演された。

印象的だったのは、ＴＰＳ誕生が「トヨタ（トヨタ自動車工業）が後発のカーメーカで、しかも極めて貧乏であったこと」に端を発すると述べられたことである。頂点を極めても貧乏だったときの精神を持ち、その精神に一層の磨きがかかっていることの妙味を、受講者は噛みしめたのではないか。

トヨタ生産方式ＴＰＳの根幹は二つの原則からなる。自動化ならぬ『自働化』（大野語録）と、生産工程を下流から上流に向けて最適化する『看板方式』である。

(1)自働化へのこだわり

生産機械の隅々までその性能（良品条件）の好調不調を見張る仕掛けが実装されなければならない。縦糸切れ検査（発生検知と停止）を機械仕掛けで実現（豊田佐吉）する、単なる織物機械を越えた、織物生産システムが実装されていた。画像処理でこれを実現する試みの根本は、すでに佐吉翁の見識に見出すことができる。

(2)just/in/timeのこだわり

看板方式の生産方式は、下流からの要請・必要以上の余計な製造はしない、従って仕掛けを置かない、在庫を発生させない、下流顧客から上流設計製造への生産駆動フローを徹底的に作り上げる。

林氏は最後に、日本の産業全体に遡及する、非常に興味深い宣言と展望を述べられた。その要点は、(a)自動車の国内生産を死守する、この軸をぶれさせない。(b)人材を輸出する、海外を舞台に活躍する若い技術者を現場で育てる（実施立案中）、これは日本の国家の大計を展望する上で重要である。

林氏は、万雷の拍手の中、十五分超過の講演を終えた。

＝情報科学研究科長、情報理工学部教授・興水大和（11月19日・名古屋キャンパス431教室）

名古屋キャンパス

地域安全講話会

学生支援室は十月十四日、地域安全講話会「地域安全について」を名古屋キャンパスで行い、学生四十七人、地域住民三十人、教職員六人の計八十三人が参加した。

講師に愛知県昭和警察署長の黒木正人さんをお招きし、地域住民と警察が協力して防犯活動を行うことの重要性について説明を受けた。

大学祭実行委員会の水谷友美さん（日本文学1）が「今回の講話会を機に防犯の意識を高め、地域と連携し安全で快適な地域づくりに協力をします」と地域安全宣言を行った。

地域住民も参加した安全講話会㊨で安全宣言をする水谷さん㊧

豊田キャンパス

交通安全講習会

豊田学生支援室は、他大学等で学生の交通事故が多発している報告を受け、学生たちに注意喚起するために「交通安全講習会」を十一月八日、豊田キャンパスで行った。体育会所属クラブの学生を中心に約五百人が参加した。

講習会は、豊田警察署交通課の大脇猛係長を講師にお招きし、三十分の講話と交通ルールの確認、交通事故現場の映像視聴という内容で行われた。学生たちは皆、真剣に聞き入っていた。

参加した木下隆広さん（体育4）は「交通ルールやマナーを守ることの大切さを再認識した。積極的に事故防止に取り組みたい」と誓いを立てた。

経済・経営シリーズ㉜

公開講座

景気シンポジウム

「2011年の経済見通し」

本学と中部経済同友会が主催する年末恒例の公開講座「景気シンポジウム・二〇一一年の経済見通し」が十二月七日、名古屋・金山の中京大学文化市民会館オーロラホールで開かれ、市民千百九十人余が熱心に聴講した。

パネリストとして、加藤洋一・経済産業省中部経済産業局長、滝茂夫・中部経済同友会代表幹事・タキヒヨー社長、立花貞司・トヨタホーム会長、浅井紀子・本学経営学研究科・経営学部教授の五氏が出席した。

奥野信宏・本学総合政策学部教授のコーディネートにより、日本経済の現状と中長期の展望、雇用対策、名古屋圏の将来について、活発な議論を展開した。

各氏の主な発言要旨は次のとおり。（文責・広報部）

活発に議論された景気シンポジウム

5氏活発議論 1190人が聴講

パネリスト（順不同）

経済産業省 中部経済産業局長 **加藤 洋一**さん

中部経済同友会 代表幹事 タキヒヨー社長 **滝 茂夫**さん

トヨタホーム会長 **立花 貞司**さん

中京大学大学院 経営学研究科・経営学部教授 **浅井 紀子**さん

コーディネーター

中京大学 理事 総合政策学部教授 **奥野 信宏**さん

◆名古屋経済圏の役割 今まで以上に大きい

加藤局長

リーマン・ショック以降、日本経済は大変な低迷状態に陥ったが、そこからの回復は欧米諸国よりも早い時期に始まった。「日本経済は強い」という自信を持つことは大切だと思う。

ただ、リーマン・ショック前後から憂慮すべき顕著な動きがある。それは、本邦企業の機能が海外へ出ていることと、外資企業がその機能を再び外へ持ち出していること。やはり国内への投資を盛り上げるためにも、それに伴う雇用状況を改善するためにも、今や税制の問題等を踏まえた対策強化が肝要となっている。また、名古屋圏に今求められているのは転換力。企業は新しいビジネスモデルを構築するなど、したたかに生きることが必要だろう。

◆繊維・アパレル輸出 新素材誕生で可能性

滝社長

国内の消費動向を見ると、ここ数年は、質は良いけれど安い、要するにお値打ち感がある商品でなければ売れなかった。ところが、一〇年は少し傾向が変わり、少し高価で少しクオリティの高いもの、スマートフォン、高級ロールケーキ、iPad等がヒット商品となった。

一〇年は企業の収益体質が改善してきているので、一一年のボーナスは増えることが予想される。そうなれば夏以降には消費も上向くのではないだろうか。

さて、かつてはこの地域の繊維産業が日本経済を引っ張ってきた。今や繊維関係は価格競争において非常に厳しい状況にある。

一方で、インターネットを媒介に日本製品の質の高さが世界中で認知されてきている。柔軟な発想、チャレンジ精神を発揮した新素材も生まれている昨今、再び、繊維・アパレル産業をこの地域の大切な輸出産業の一つにしていくことも可能ではないだろうか。

また今後は、スマート・グリッドの流れに合わせたプラットフォーム構築への取り組みも進めたい。今まで以上に名古屋圏の役割は大きくなると思っている。

◆緩やかな景気回復基調 住宅産業の活性化策を

立花会長

この一年、日本経済は政府の景気刺激策、また新興国や資源国の経済成長に支えられ、緩やかな回復を見せてきた。一一年も輸出を軸に緩やかな回復基調が継続するものと見込まれる。

ただ、円高、デフレ長期化、欧州での国家財政破綻といったリスク要因が懸念される。国には、FTAやTPPへの戦略的な対応、機動的な為替対策を望む。

とくに、内需拡大のために、他産業への波及効果が大きい住宅産業の活性化のための更なる施策が必要。

名古屋圏については、景気のバロメーターである住宅需要は回復基調にある。しかし、自動車はエコカー補助金の駆け込み需要の反動で減速感がある。一一年春頃にはある程度回復してくるものと見られるが。

ただ、現地現物の姿勢で消費者のニーズを的確につかみ、魅力ある商品づくりを努めていくかぎり、この地域のモノづくりの強さはゆるがないと信じている。

◆科学技術集積した農業 世界へ発信の先進地に

浅井教授

日本経済は緩やかな回復基調にあると言われるが、明るい見通しが立たなければ、雇用の拡大、創出は難しい。学生の就職内定率は就職氷河期よりも低い。

日本の製造業は今や追い詰められている状況だ。アジア等の新興国における技術のレベルアップ、従来とは桁違いに高度なナノテクを駆使した製品開発、ものづくりのパラダイム転換等が起きており、研究開発促進、新たなインフラ整備などが急務となっている。

名古屋圏でも、現在の形や規模でものづくり産業を立地していくのは難しい。温暖化ガス削減目標も厳しい。ならば、当地を、科学技術の集積を生かした付加価値の高い農業を世界に発信するモデル地域と位置づけてみてはどうか。きっと世界中から人が訪れる魅力ある地域になれると思う。

そういう未来像と、過去の歴史遺産等も合わせて観光資源としたコトづくりをしていくことが大事だと思っている。

◆政府は法人税、TPP 若年就職支援に対応を

奥野教授

一〇年は〇九年と同様、リーマン・ショックから立ち直るための一年で、政府の景気刺激策も相まって日本経済は順調に回復してきたと感じる。ここにきて各地域の経済は減速してきたとも言われるが、今後は輸出が伸び、緩やかに回復していくと思われる。輸出関連企業等では収益が上がることも期待できよう。

ただ、デフレ、円高、若年層の高い失業率という難問が残されている。政府は法人税率、TPPへの対応、就職支援等にしっかり取り組んでいただきたい。

ものづくりでは圧倒的な強さを誇ってきた名古屋圏も、今やアジア諸国に勝てるのかという不安があるようだ。多様な分野、多様な人材を世界中からこの地域に集め、ものづくり地域として強化するには、まずは街を魅力的にすることだ。

一一年の景気の見通しとしては、夏には回復するだろうと期待している。

国際センター NEWS

米ケネソー州立大留学説明会
来学2教授と質疑応答

今年度から新たに個別協定校となったケネソー州立大学（米国ジョージア州）のモリス教授、アモロッソ教授が、十一月初旬に来学した。国際センターでは、両教授による留学説明会を十一月五日に開催した。

参加したのは、交換留学を希望する一、二年生を中心にした約二十人。両教授が、ケネソー州立大の紹介やアメリカでの留学生活をレクチャーした後、質疑応答が行われた。学生からは、「学生が英語を教えるチューターのシステムがありますか」など多くの質問が出た。学生の一人は、「新たに留学先として加わった大学の教授から、直接大学の様子や留学生活について話が聞けてよかった。留学への興味がますます湧いてきた」と感想を話していた。

二〇一一年度には、本学よりケネソー州立大学に三人の交換留学生を初めて派遣する予定になっている。

ケネソー州立大教授から説明を聞く学生たち

交換留学生カフェ
大学祭ブース賞2位

一年間本学に交換留学している留学生十六人が、名古屋キャンパスの大学祭で、「留学生と交流ができる」というテーマのカフェを出店した。

留学生たちは、日本人学生十五人と一緒になって、看板の作成などの事前準備や大学祭当日の接客をした。カフェでは「鈴カステラ」とコーヒーを販売。約百二十人がカフェに訪れ、留学生との会話を楽しんだ。

アメリカの留学生は「ハロウィーンの仮装をして、お客さんも自分たちも楽しめた」と話していた。また、模擬店のリーダーを務めた日本人学生は「準備は大変だったが、みんなで協力した結果、ブース賞で二位を取ることができて良かった」と話していた。

親睦を深めた文化会の学生と教職員

和やかに文化会
顧問・会員親睦会

文化会は十二月二日、第五回文化会顧問・会員親睦会を名古屋キャンパスで開催した。

親睦会は、北川薫学長をはじめ顧問の先生や職員の皆さんを招いて、日頃の感謝の気持ちを伝えること、親睦を深めることを目的に行った。各クラブの部長や役員を含む約八十人が出席した。

酒井敏文化会学術顧問から「文化会の活動を通じて、自分の魅力を押し出すことを覚えてほしい」とアドバイスをいただき、三浦悠新文化会幹事長が「幹事長として文化会をリードしていきたい」と力強い決意表明をした。

親睦会は和やかな雰囲気の中で行われ、終始笑顔で話が尽きない様子だった。

（広報局長・法律2・原田駿一）

三重中京大学ニュース

母校で初の全体同窓会
大学・短大で500人が出席

三重中京大学同窓会（山本聡会長、八千人）と三重中京大学短期大学部同窓会「真美会」（吉田和子会長、一万六千人）は十一月六日、大学祭が行われたキャンパスで、それぞれ「ホームカミングデー」を開催した。

今年度からの学生募集停止に伴い、卒業生から両学や同窓会に母校への熱い思いが寄せられたため、大学祭当日の開催を企画した。大学は第一期生（松阪大学）が卒業した八六年以降、短大（松阪女子短期大学）は六五年以降、母校で全体の同窓会を開くのは初めて。

大学は二百人が出席して体育館で、短大は家族も含め三百人が会して二号館食堂で行われた。

卒業生たちは軽食をとりながら歓談したり、キャンパスを巡り歩いたりして学生時代を懐かしんでいた。また、退職した教職員たちも訪れ、再会を喜び合っていた。

久々の再会で盛り上がった短大同窓会

弁当部門で最優秀賞
かむかむコンクール

三重県と同県歯科医師会主催の『かむかむクッキングコンクール』の弁当部門で、三重中京大学短期大学部の伊藤早織さん（食物栄養2）のレシピ「うまし国20品目お弁当」が最優秀賞に輝いた。

子供が健康な歯で食事をおいしく、楽しく食べることを促進しようと、子供向けの弁当とおやつの二部門を募った。弁当部門には百六点の応募があった。

伊藤さんのレシピは、三重県産の肉や魚、野菜を食材にした弁当で、栄養バランスと地産地消のアイデアが高く評価された。おやつ部門（応募数二百四十点）でも、尼崎利佳さん（食物栄養2）のレシピ「季節の果汁かむかむグミキャンデー」が優秀賞に選ばれた。二人は十一月二十八日、同県歯科医師会会館（津市）で表彰された。

ご当地グルメでまちおこし
文化会がシンポジウムを開催

地域活性化を考えるシンポジウム「地域の食でまちづくりしてみよに！」（三重中京大学文化会主催）が十一月六日、七号館で行われ、静岡・富士宮やきそば学会会長の渡辺英彦さんが、学生代表や松阪市の山中光茂市長と意見を交換した。

渡辺さんは、富士宮市民が古くから家庭で食べていた「やきそば」を全国に売り出した。また、ご当地グルメの祭典「B―1グランプリ」を立ち上げ、まちおこしの市民リーダー的存在として注目されている。

渡辺さんは、「地元で当たり前に食べられている物を、知恵とアイデアで全国に広めていくことが大切。松阪は、レコードのA面は松阪牛で大ヒット。次はB面的なグルメがあると来客層が増える」などと持論を展開。松阪市内の飲食店を紹介するウエブサイトを開設した文化会の学生には、「行政と役割を分担し、学生だから出来ることをやってほしい」とエールを送った。

学生と話し合う渡辺さん（左から2人目）

産学連携で商品開発

総合政策学部 坂田ゼミ　経営学部 中村ゼミ

総合政策学部や経営学部のゼミ生が商品開発にかかわった弁当やお菓子が、十二月に相次いで発売された。いずれも、産学連携による経営学やマーケティングの実践講義の一環。街頭調査や企業へのプレゼンテーションを繰り返し、約半年がかりで商品化にこぎつけた。

一つは、総合政策学部の坂田ゼミ（担当・坂田隆文准教授）の学生が提案したみそカツ弁当「カツまぶし」。みそカツが名古屋名物の櫃（ひつ）まぶし風に小さく切ってご飯にのせてある。全面的に協力したサークルKサンクスは、「学生の豊かな発想や想像力が生かされた」として、十二月二～十五日に中京地区の約千五百店舗で販売（一個四百八十円）した。

もう一つは、ピリ辛お菓子「もう手羽なせん味！ミニイカフライ」。経営学部の中村ゼミ（担当・中村雅章教授）と坂田ゼミ生が共同で提案した。世界の山ちゃんで人気の「幻の手羽先」の風味になっている。

中日ドラゴンズからの依頼を受け、ナゴヤドームの集客に結びつく商品を企画する「ドラゴンズプロジェクト」として取り組んだ。ドラゴンズと山ちゃんの担当者からは「学生のユーモアがあふれている」と高い評価を受けた。十二月二十日から東海三県のコンビニエンスストア、駅売店、量販店で販売（オープン価格）された。

ミニイカフライを提案したゼミ生ら（中村教授は右から2人目、坂田准教授は左端）

カツまぶし

ミニイカフライ

同窓会愛知県学校部会
管理職・行政職員懇談会を開催

同窓会愛知県学校部会の管理職・行政職員懇談会（写真）が十一月六日、名古屋市内のホテルで開催された。梅村清弘総長・理事長、北川薫学長ら大学関係者を含め約六十人が出席した。

吉田幸弘学校部会長（豊田高等養護学校長）が「今年も教員採用試験で本学から多数合格しています。若い人たちを引っ張り上げていただき、部会を盛り上げてください」と、開会のあいさつをした。

来賓の梅村総長・理事長は、本学の現状と展望を説明し、「今後も社会情勢をみて発展させていきたい」と、更なる発展を目指す考えを強調。川岸信一同窓会長は「学生の就職活動の支援を今後もお願いします」と、教職を希望する学生へのバックアップを求めた。

参加者は、小中学校や高校の校長、教頭をはじめ、教育委員会の指導的立場の同窓生ばかり。意見を交わしたり、在学時代の思い出を話したりと、各テーブルで談笑の輪ができ、懇親を深めた。

OBの俊寛さん切り絵展

C²
C.SQUARE

経済学部経済学科を九三年に卒業した切り絵師、俊寛さんの作品展が、名古屋キャンパスのアートギャラリーC・スクエアで、十一月に開催された。

企画展は今年度で百回を数えるが、本学OBの作家による展示は初めてとなった。

俊寛さん（本名・菅俊一郎さん）は、経済学科を卒業後、印刷会社勤務を経て、九六年にイタリアのフィレンツェに渡り、切り絵の制作活動を始めた。〇一年から題材にしたのが、靴職人、シャツ職人、仮面職人などのフィレンツェの職人たち。工房で制作物や道具に囲まれて仕事をする様子を精緻な切り絵で表現した。

C・スクエアでは、イタリアの職人シリーズに、帰国後制作した常滑焼など日本の職人シリーズを出品した。

展示期間中、五日間にわたり、会場で制作実演（写真）も行い、訪れた後輩の学生に切り絵の手ほどきをした。

同窓生11人が入選
大池茂樹教授も25回目

日展・書部門

第四十二回日展の書部門の入選者が十月十六日発表された。本学関係は同窓生十一人（判明分）と文学部言語表現学科の大池茂樹（青岑）教授（二十五回目）が入選を果たした。日展東海展は一月十九日から二月十三日まで愛知県美術館ギャラリー（名古屋・栄）で開催される。

◆

同窓生の入選者は次のとおり。（敬称略、カッコ内の数字は入選回数）

関根豊（玉振・七一年国文卒、二十二回目）、佐藤敏夫（慶雲・六九年商卒、十八回目）、梶山実夫（夏舟・七二年国文卒、十六回目）、加藤元康（矢舟・七六年国文卒、十五回目）、村瀬俊彦（七九年国文卒、十三回目）、山際清治（雲峰・七四年商卒、十一回目）、世古口勉（大虚・七〇年国文卒、八回目）、林英俊（大樹・七六年国文卒、八回目）、磯谷寧（凄聴・七八年国文卒、三回目）、寺尾壮平（桑林・七九年国文卒、二回目）、上小倉一志（積山・八四年国文卒、二回目）

卒業アルバムの申し込みは早めに

卒業アルバムの企画を担当しているアルバム委員会は一一年三月卒業予定者に「希望者は早めに申し込みを」と呼びかけている。

卒業アルバムは購入の注文分だけを製作。同委員会はアルバムに掲載する個人写真の撮影についても「早めに」と呼びかけている。

申し込み、問い合わせ等は、キャンパス内の永井写真館スタジオ、または同本社（☎052―931―6781）へ。

訃報

名誉教授（元法学部教授）佐保 雅子さん（さほ・まさこ）

十二月七日逝去されました。79歳。74～01年在職。外国法。

元社会学部教授 川合 章さん（かわい・あきら）

十一月二日逝去されました。89歳。87～93年在職。教育学。

フィギュアスケート GPシリーズに5選手出場

小塚、安藤選手2勝　村上選手も米で優勝

小塚崇彦選手

安藤美姫選手

村上佳菜子選手

フィギュアスケートのグランプリ（GP）シリーズが世界各地で全六戦行われ、本学園から出場した五選手が活躍した。

小塚崇彦選手（体育4・トヨタ自動車）が中国杯とフランス杯で優勝、安藤美姫選手（同）は中国杯とロシア杯で優勝し、それぞれ二勝する活躍。今季ジュニアからシニアに転向した村上佳菜子選手（中京大中京高1）も、スケートアメリカで優勝、NHK杯三位となった。

浅田真央選手（体育2）は、今季はジャンプを修正しており、NHK杯八位、フランス杯五位。無良崇人選手（体育2）は、NHK杯六位だった。

シリーズの成績の結果、中国・北京で十二月十、十一日に開催されたGPファイナルには、三選手が出場。小塚選手が三位となり、〇八年の二位に続きGPファイナルでメダルを獲得した。村上選手も三位となり、浅田選手に続く初出場でのメダル獲得。安藤選手は、二日目のフリーで最高点を挙げ、総合五位となった。

冨田 尚弥選手が金メダル

広州アジア大会　競泳

冨田選手（写真㊤）

水泳部の冨田尚弥選手（体育3）が、十一月に中国で開かれた広州アジア大会で、二百m平泳ぎに出場し、金メダルを獲得した。記録は2分10秒36と、自己ベストに届かなかったが、2位以下に大差をつけての圧勝だった。

冨田選手は、短水路（25mプール）で競う第10回世界短水路選手権大会（12月15―19日、ドバイ）の二百m平泳ぎに出場し、2分3秒12の短水路日本新記録で優勝している。

日本学生選手権 初優勝を祝う

一方、水泳部男子の日本学生選手権（9月・東京）初優勝を記念した優勝祝賀会（写真）が十一月二十八日、名古屋市内のホテルで開かれた。水泳部卒業生も含め、関係者ら約三百五十人が出席し、学生日本一の快挙を祝った。

また、広州アジア大会で優勝した冨田選手の報告会も併せて開催された。

スポーツ功労団体 本学園表彰される

本学園は、五輪選手などの育成で成果を挙げた大学、企業などに贈られる文部科学省の「スポーツ功労団体」に選ばれ、十一月一日に表彰された。

本学園は、①フィギュアスケート専用リンク「アイスアリーナ」を建設し練習環境を整備した、②継続的にフィギュア選手の強化活動を支援している、③ナショナルトレーニングセンターとして大きな役割を担っている、④浅田真央選手が二〇一〇年バンクーバーオリンピックで銀メダルを、続く世界選手権で金メダルを獲得したことに貢献した、ことなどが高く評価された。

同表彰は今年新設され、九団体が選ばれた。大学関係では、関西大学（スケート）、天理大学（柔道）、山梨学院大学（柔道）にも贈られた。

スポーツの記録

体育会所属クラブの主な結果（10―12月）

国際大会

スケート部（ショートトラック）
W杯長春大会（12月3―5日、中国）
清水小百合選手（経営4）3千mリレー4位

全国大会

スケート部（ショートトラック）
日本学生選手権（10月23・24日、長野）
世界明斗選手（体育1）千m優勝・5百m4位
全日本ジュニア選手権（11月20・21日、広島）
世界明斗選手男子総合2位（5百m・千5百m・千5mSuper Final2位、千m3位）
全日本距離別選手権（10月9―11日、長野）
清水小百合選手千m3位、5百m・千5百m5位、世界明斗選手千m4位
ユニバーシアード日本代表選考競技会（11月13・14日、大阪）
清水小百合選手女子総合5位（3千m2位、5百m3位、千5百m6位）、世界明斗選手男子総合9位（5百m6位、千m8位）

自転車競技部（バイクトライアル）
全日本選手権（10月10日、広島）
柴田泰隆選手（現社3）3位
学生選手権プレ大会（11月28日、京都）
柴田泰隆選手優勝

剣道部
全日本学生優勝大会（11月14日、愛知）
女子3位

ウェイトリフティング部
全日本選抜選手権（11月19―21日、山口）
福本真莉恵選手（現社2）53kg級4位

アルティメット部
全日本選手権（10月16・17日、静岡）
女子5位、オープン8位

バドミントン部
全日本学生選手権（10月15―21日、東京）
男子団体9位

ハンドボール部
全日本学生大会（11月19―21日、大阪）
男子ベスト8

陸上ホッケー部
全日本学生選手権（10月30―11月3日、埼玉）
女子ベスト8

陸上競技部
全日本大学駅伝（11月8日、三重）
男子19位

空手道部
全日本学生選手権（11月21日、東京）
女子団体組手ベスト16

ダンス部
Artistic Movement in TOYAMA（9月18―20日、富山）特別賞

バレーボール部
全日本大学選手権（11月29日―12月5日）
男女ともにベスト32

西日本大会

スケート部（フィギュア）
西日本選手権（11月4―7日、福岡）
無良崇人選手（体育2）優勝

東海地区優勝

ソフトテニス部
東海学生大学対抗リーグ戦（10月11・12日、三重）
男子優勝
東海学生選抜インドア選手権（11月20・21日、愛知）
加納亜由美選手（体育4）・薮下裕梨選手（体育3）ペア優勝

体操競技部
中部日本学生交流大会（11月23日、岐阜）
戎谷紀幸選手（体育3）男子総合優勝、佐藤なつみ選手（体育2）女子総合優勝、福和夕記選手（体育1）女子新人の部優勝

陸上競技部
東海学生駅伝対校選手権（12月5日、愛知）
男子優勝、女子2位

アイスホッケー部
中部学生選手権（9月26―11月6日、愛知）優勝

空手道部
東海学生選手権（10月11日、愛知）
男女ともに団体形優勝
寺澤慶子選手（体育4）女子個人形優勝、華井雅斗選手（現社1）男子個人組手優勝